南モラヴィア大草原と西ボヘミア・南ボヘミア古都逍遥

ロケット

もう一度行きたいボヘミア 〜ツアーのポイント〜

◆**プラハに3連泊**です。添乗員もいろいろと散策や観光のお手伝いをいたします。
◆**ポップとビールの聖地**・ジャデツを訪問し、**ビールとホップの祭典**（ホップ収穫祭）にご案内します。**ビールの名品**、チェコ・ラガーやエールをお楽しみください。
◆**チェコ三大名城**のボウゾフ城、ペルンシュテイン城、ロケット城を観光します。
◆南ボヘミアの**温泉町トシェボニュに連泊**し、**SL列車の旅**を楽しみます。
◆南モラヴィアのミクロフで**ワイン祭り**をご覧いただきます。
◆モラヴィアの都・**ブルノに3連泊**し、**南モラヴィア大草原**やモラヴィア・カルストを巡ります。
◆古くからの保養地プランティシュコヴィ・ラーズニェ、ラガーの町プルゼニュを含め、**5都市全てで連泊**です。

ヴラノフ

日次	都市名	スケジュールと見どころ／お食事と宿泊地
1	千歳 ソウル プラハ	スーツケース無料託送サービス　ご自宅〜空港 ■午前、千歳空港より、大韓航空にてソウルへ[08:55発／11:55着]。 ■午後、ソウルで大韓航空を乗継ぎ、プラハへ[12:45発／16:50着]。 プラハに3連泊です。 [**プラハ泊**] ☒✈☒
2	プラハ (ジャデツ) ビール祭り (ロウニー)	■午前、専用バスにて、**“ホップとビールの聖地”ジャデツ**へ。 ■着後、**ジャデツ市内観光**(**ホップとビールの神殿**、ホップからくり天文時計、ホップ博物館など)。 ■昼食は『レストラン・ウ・ハダ』にて、**キノコとベーコンのラグー**と**仔牛のソースがかかった豚のヒレ肉料理**を地元のビールと一緒にどうぞ。 ■チェコ最大の**ビール祭り『ジャデツ・ホップ収穫祭』**をお楽しみください。 ■その後、プラハへ戻る途中で、緑に囲まれた**古都ロウニー**に立寄ります(聖ニコラス教会、城門[ジャテツカ・ブラナ]など)。 ■夕食は、『レストラン・オブラカ』にて。夕食後には**高さ70mの展望台からプラハの夜景**をお楽しみください。 [**プラハ泊**] ☕🍴🍽
3	プラハ滞在	■ 世界遺産 プラハ滞在 。終日、自由行動。ご希望の方は添乗員が、王の道(火薬塔〜旧市街広場〜カレル橋〜小地区)の散策やムハ(ミューシャ)美術館などに、実費にてご案内いたします。夜は音楽会のお手伝いも致します。 [**プラハ泊**] ☕☒☒
4	プラハ リジツェ クシヴォクラート フランチシュコヴィ・ラーズニェ	■午前、第2次世界大戦で**消滅してしまった村・リジツェ**を見学します。 ■午後、**森の中の古城・クシヴォクラート城***へご案内します。 ■夕刻、西ボヘミアの**中世からの温泉保養地フランチシュコヴィ・ラーズニェ**へ。 フランチシュコヴィ・ラーズニェに連泊します。 [**フランチシュコヴィ・ラーズニェ泊**] ☕🍴🍽
5	フランチシュコヴィ・ラーズニェ (ベチョフ城) (ロケット)	■午前、**“世紀の発見”ベチョフ・ナド・テプロウ城**を見学します(**聖マウルの黄金の聖骨箱**など)。 ■その後、**古城街道**の街・ロケットへ。昼食は『ホテル・シザージュ・フェルディナンド』にて。 ■午後、チェコ最古の城の一つでオフジェ川に聳える**名城ロケット城**や郊外のゲーテも訪れた**スヴァトシュ・ロックス渓谷**をご案内いたします。 ■夕刻、フランチシュコヴィ・ラーズニェの散策をお楽しみください。 [**フランチシュコヴィ・ラーズニェ泊**] ☕🍴🍽

ご旅行条件

■募集人員／18名様限定
■最少催行人数／10名様
■お食事／朝食12回・昼食10回・夕食10回
■旅券残存期間／チェコ入国時3ヶ月以上
■千歳空港使用料／¥1,030(別途必要)
■**旅行代金には、海外の空港税、出国税、航空保安税が含まれております。**
■**弊社では燃油サーチャージを別途徴収いたしません。**
■千歳空港より、全行程、社員添乗員同行
■トランク往復無料託送サービス[ご自宅〜空港〜ご自宅]
※**ビジネスクラス利用追加料金はお問合せください。**
※**日本各地の空港から出国して、ソウルで合流するプランも同料金にて承ります(日本の空港使用料は別途必要です)。利用空港により仁川の観光ができなくなる場合がございます。返金はございませんので御了解ください。**

ズヴィーコフ

ご利用予定ホテル

■**プラハ**／ホテル・ヤルタマジェスティック、アンバサダー、ベセダ・プラハ
■**フランチシュコヴィ・ラーズニェ**／スパ&クアホテル・ハーヴェイ、インペリアル・スパ&クアホテル、サヴォイ・スパ&クアホテル、スリー・リリーズ、ラジェニスキー・ピラミダ、ウェルネスホテル・イーダ、ホテル・レジャ、フランシス・パレス、クアホテル・ブリュッセル、ホテル・パウリク、ホテル・バイカル、LDパレス
■**プルゼニュ**／ホテル・セントラル、コートヤード・バイ・マリオット、アンジェロ・バイ・ヴィエナハウス、ホテル・ルース、プリマヴェーラ・ホテル、アストリー・ホテル、ホテル・パノラマ、ホテル・ゴンドラ、ホテル・プルクミストル。ウェルネス・ペンジオン、ウ・プラメニュ、ウ・ズヴォニュ
■**トシェボニュ**／スヴェト、デザインホテル・ロマンチック、ガルニホテル・トボシェニュ、ズラタ・フヴェズダ、ビリー・コニチェク、ミスリブナ
■**ブルノ**／グランドホテル・ブルノ、ヴィスタ、インターナショナル、ホリデイ・イン、オレア、スラヴィア
※上記ホテル又は同等クラスとなります。

モラヴィア大草原(イメージ)

※上記の時間は、すべて現地時間で表示されております。
※現地の都合によりスケジュールが変更される場合がございます。その場合でも極力日程に従って旅行サービスがお受けになられるよう万全の手配努力を致します。
※表記の「☕🍴🍽✈」はそれぞれ「朝食・昼食・夕食・機内食」を示します。☒印の食事は含まれておりません。
注)*印は外観のみの観光になる場合がございます。

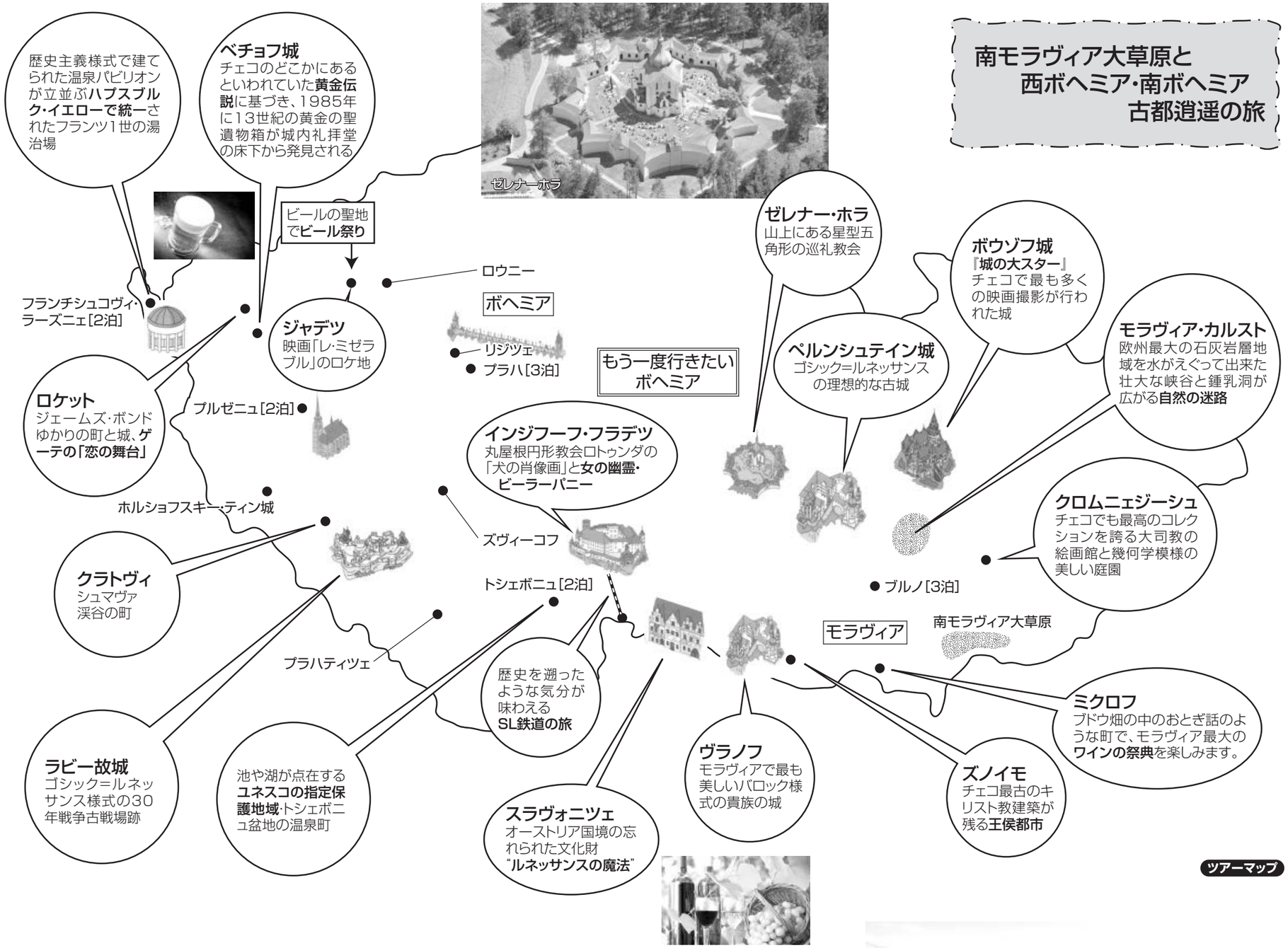
日次	都市名	スケジュールと見どころ／お食事と宿泊地
6	フランチシュコヴィ・ラーズニェ プルゼニュ (ホルショフスキー・ティン)	■午前、専用バスにて、西ボヘミアのプルゼニュへ。 ■着後、プルゼニュのファーマーズ・マーケットを訪れます。 ■午後、**クーデンホーフ光子の肖像画**が残る**ホルショフスキー・ティン城**を見学します。 ■夕食は、ビール醸造所『**ピルゼン・プラズドロイ**』にて。 プルゼニュにも連泊します。 [**プルゼニュ泊**] ☕🍴🍽
7	【西ボヘミア】 (クラトヴィ) (ジンコヴィ) (ラビー城)	《 **終日、西ボヘミアの古都と城巡りへご案内します** 》 ■午前、**クラトヴィ市内観光**(悪霊墓地、諸聖人納骨礼拝堂、白いユニコーン薬局、黒い塔展望台など)、 ■午後、美しい**ウスラヴァ湖畔のジンコヴィ宮殿**を観光します。 ■その後、15世紀の**廃城ラビー城**を見学いたします。 [**プルゼニュ泊**] ☕🍴🍽
8	プルゼニュ ズヴィーコフ プラハティツェ トシェボニュ	■午前、2つの川を見下ろすゴシックの古城・**ズヴィーコフ城**にご案内します。 ■午後、『**ルネッサンスの真珠**』**プラハティツェ**を散策します。 ■夕刻、トシェボニュ周辺の湖水に立寄り、12世紀の古都トシェボニュ温泉へ。 トシェボニュにも連泊です。 [**トシェボニュ泊**] ☕🍴🍽
9	【南ボヘミア】 (インジフーフ・フラデツ) 蒸気機関車 (スラヴォニツェ) トシェボニュ	《 **終日、南ボヘミアの古都巡りへご案内します** 》 ■朝、チェコ有数の美しい都市**インドジフーフ・フラデツ**にて、ヴァイガル湖の水面に映る優雅なルネサンス様式の**謎の古城**などをご覧いただきます。 ■その後、オーストリア国境のノヴァ・ビストジツェまで**昔のままの蒸気機関車の旅**をお楽しみください[10:44発／13:03着]。 ■午後、**ルネッサンス都市・スラヴォニツェ**を観光します。 ■夕刻、**魔法にかかったようなトシェボニュ**の**ルネッサンス様式の見事な旧市街**の散策をお楽しみください。 [**トシェボニュ泊**] ☕☒🍽
10	トシェボニュ 【南モラヴィア】 ヴラノフ ズノイモ ミクロフ ワイン祭り ブルノ	《 **終日、南モラヴィアの古都巡りへご案内します** 》 ■朝、ディエ川を見下ろす**崖の上に立つヴラノフ・ナド・ディイー城**を見学します(「先祖のホール」など)。[この日は7:30の出発予定です] ■その後、**王侯都市ズノイモ**にて、**チェコ最古の宗教建築物**で円形のキリスト教会**「聖カテジナのロトゥンダ」**も見学します。 ■午後、丘の上に城が聳える**メルヘンチックな町・ミクロフ**にて、**歴史ある『パーラヴァぶどう収穫祭』**にご案内します。 ■夕刻、専用バスにて、モラヴィアの都ブルノへ。 ブルノに3連泊いたします。 [**ブルノ泊**] ☕🍴🍽
11	ブルノ 南モラヴィア大草原 (クロムニェジーシュ)	■朝、**ブルノの朝市**にご案内します。 ■午前、南モラヴィア大草原へご案内いたします。**どこまでも続く美しい大草原の丘陵地帯の景観**をお楽しみください。 ■午後、チェコで最も美しい街の一つ**クロムニェジーシュ**を見学いたします(カラフルな旧市街や 世界文化遺産・クロムニェジーシュ大司教城館 など)。 [**ブルノ泊**] ☕🍴🍽
12	ブルノ (ペルンシュテイン城) (ボウゾフ城) (モラフスキー・クラス)	《 **終日、モラヴィアの名城巡りへご案内します** 》 ■午前、**モラヴィアで最も美しい城の**一つ・**ペルンシュテイン城***を見学します。 ■午後、**絵本から出てきたような可愛らしいボウゾフ城**(14世紀)を観光します。 ■夕刻、峡谷と鍾乳洞の広がる**景勝地モラフスキー・クラス(モラヴィア・カルスト)**に立寄り、ブルノに戻ります。 [**ブルノ泊**] ☕🍴🍽
13	ブルノ ゼレナーホラ プラハ	■午前、専用バスにて、ゼレナーホラへ。 ■着後、 世界遺産・聖ヤン・ネポムツキー巡礼聖堂 を観光します。 ■その後、専用バスにて、プラハ空港へ。 ■夕刻、大韓航空にてソウルへ[18:50発]。 [**機中泊**] ☕🍴✈
14	ソウル (仁川) 千歳	■午前、ソウル到着[11:50着]。 ■着後、**仁川お寺ツアー**[2時間／混載]にご案内します。 ■夕刻、大韓航空にて帰国の途へ[18:40発]。 ■夜、千歳空港到着[21:20着]。税関検査終了後、解散。 スーツケース無料託送サービス　空港〜ご自宅 ✈☒✈

西ボヘミアの森の奥深く、ベチョフ城に眠る秘宝『聖マウロの遺物箱』

西ボヘミアのカルロヴィヴァリ温泉の南、ロマンチックな**カイザーヴァルト**[皇帝の森／チェコ名:スラフコフスキーレス]の中央部、テプラ川右岸の小さな町に**ベチョフ・ナト・テプロウ城**(テプラ川のベチョフ城)という古城があります。この城の起源は13世紀にまで遡ります。中世には金・銀・錫の鉱山がこの地域で栄え、その鉱業の保護のために貴族のプルホヴェー家がここに最初の城を建造しました。14世紀初頭に、以後200年にわたりこの地を支配した領主オシェクによって、ゴシック様式の現在の城が小高い丘の頂上に築かれました。15世紀後半から16世紀前半のラブシュテイン公プルスの時代に、敷石と壁絵、そして城の中庭は礼拝堂の四角い塔とプルウ宮殿と厩舎に囲まれ、ルネサンス・スタイルに改装・改築されました。17世紀にヨーロッパで三十年戦争が起きるまで、城や城下町は錫鉱山を中心として発展してきました。1621年の火災で町は焼かれ、1648年にはスウェーデン軍により城は破壊されてしまいましたが、ユニークなゴシック調とルネサンス調の壁画がその当時の姿を現在も留めています。18世紀、別の貴族によって、この中世の古いベチョフ城の下に隣接してルネサンス時代の建物を改修したバロック様式の**ベチョフ宮殿**も建てられました。19世紀にロマン主義の建築家たちの改修案が出されましたが、ほとんど実行されず、現在も中世の趣を保っています。

そしてこのベチョフ城には現在、『**聖マウロの遺物箱**』と呼ばれる**ロマネスク様式の聖骨箱**が保管されています。この聖遺物箱は中世の金細工作品の中でも特に美しい作品の一つで、チェコ共和国では聖ヴァーツラフ王冠など戴冠式の宝物に次いで**2番目に重要な歴史的芸術的文物**であると考えられています。そしてこの黄金で装飾を施した遺物箱は、波乱に満ちた興味深い歴史を持っているのです。**それはまるで探偵小説のようなお話**です。

この遺物箱は13世紀の初めに、ベルギー・ナミュール近郊の**フロレンヌ修道院**で作られました。元々は洗礼者ヨハネと聖テモテ(パウロの弟子)の遺骨の一部を安置するためでしたが、後に聖マウロ(聖ベネディクトの弟子、グランフォイ大修道院長、584年没)の遺骨も追加されています。木製の枠組みが金張りされた銀板で覆われ、十二使徒を含む数多くの小さな彫像、精巧なロマネスク様式の金銀彫刻、フィリグリー文様、たくさんの宝石で飾られています。フランス革命で修道院が解体させられると遺物箱は地元の教会に移され、1838年にアルフレド・ド・ボーフォール・スポンタン公爵によって買い取られました。公爵は破損していた遺物箱を修復し、1885年のブリュッセルでの展覧会に出品したのち、1888年に自らの所領にあるベチョフ城へと箱を移しました。



ボーフォール家は第二次大戦中、ナチス党と協力関係にあり、ドイツ国籍を取得していたため、1945年、終戦を迎えるとチェコを追放され、ドイツ移住を余儀なくされました。戦争終結の少し前、侵攻してきたソ連軍による没収を避けるため、遺物箱は城内礼拝堂の床下に埋められ、その甲斐があってか、箱の存在は人々から忘れ去られてしまいました。

1984年、**ダニー・ダグラス**というアメリカ人実業家が、ウィーンの大使館経由でチェコスロバキア当局に対して、ある申し出を行いました。それは、現在、チェコスロバキアで誰も所有権を主張しておらず、しかもその存在が確認されていない**"ある物"**をチェコのどこかで探し出し、それを検査無しでアメリカに持ち出す権利を得る代わりに25万ドルを払いたいというものでした。彼は手の内を明かしませんでしたが、当時、外貨不足にあった共産党政権は1985年に許可を出す一方で、"貴族が所有していた"などの彼が語った数少ない情報の断片から、**"ある物"**の正体の確認と捜索を捜査当局に指示していました。ときの連邦捜査局長、**フランティシェク・マリシュカ法学博士**がその作戦指揮をとることになりましたが、手がかりはあまりにも少なく、ほぼ絶望的な状況でした。

アメリカ人の語ったほんのわずかな手がかりと戦後、語られていた**「黄金伝説」**から、マリシュカのチームはチェコ各地の図書館や資料館での徹底的な文献調査の結果、**"ある物"**が隠されている可能性のある場所を、ドイツ国境近くの5ヶ所に絞り込みました。そして、そのアメリカ人がチェコ国内での調査開始を許可されている日まで残すところ3週間に迫ったとき、マリシュカのチームは**"ある物"**の所在地をベチョフ城とその周辺に限定できました。警察を中心とした大規模なチームが組まれ、金属探知機を使って、庭園や城外のいくつかの場所に穴を掘って調べましたが何も見つかりませんでした。冬が近づき天候が悪化しはじめたとき、マリシュカたちはあることに気がついたのです。アメリカ人は調査開始許可日が冬なのに、積雪や大地が凍ることを心配していなかったという点です。チームは"ある物"は建物の内部にあるはずだと確信しました。城の床下、隠し部屋、隠し扉が徹底的に調べあげられ、**1985年11月5日**、ついにベチョフ城の**古い礼拝堂の床下**から『聖マウロの遺物箱』を発見したのでした。

箱は40年間の長きにわたり湿気の多い床下に隠されていたため、腐食が進んでいました。チェコ当局は箱の国外への持ち出しを拒否し、所有権問題を解決した後、1991年、プラハ国立美術工芸博物館とドイツ・アーヘンの専門家に修復を依頼しました。**10年かけた復元**は2002年に完了し、この美術品はベチョフ城に返還されました。『聖マウロの遺物箱』はプラハ城での一般公開を経て、現在、ベチョフ城で展示されています。

ぶどうの村・ミクロフ